**荒川区中学校バドミントン部 審判講習**

審判員は、バドミントンはプレーヤーのためのものであることを旨とする。両プレーヤーが力を発揮できるように公正に判定を行う。主審が試合の判定を行う最終決定者なので、毅然とした態度で試合を進める。

※線審の判定も採用するかは主審の判断。（コレクションで判定を変えられる。）

※先生が抗議してきても判定を変えない。（主審の判断が最終判断となる。）

主審

・プレーヤーがコートに揃ったら、スコアシートのプレーヤー名を確認。（特に読み方）

・ウエアの確認、背面の確認（大会運営規程 第23・24 条）

・トスを行いサービス、レシーブ、エンドの確認をしてスコアシートに記入する。

・前項確認が終了後速やかに試合を始める。

 線審が正しい位置に座っているか

 荷物が主審台横に置いてあるか、給水用のペットボトル等が所定のボックス等にあるか

・「ラブオール」で両方のプレーヤーを確認して「プレー」で試合を開始する

・スコアシートの記入は、出来るだけ短時間で済ませ顔を上げて得点をコールする

 顔を上げてコールすることで大きな声が出せます。（大きな、ハッキリとした声が必要です。）

 少なくともそのコートの得点係に明瞭に聞こえる位の声の大きさが必要です

 プレーヤーの位置に疑問がある時は、サービスに入るのを止めて確認してください

落下点がどんなに自分の近くでも担当の線審を見る、アイコンタクトをすることで線審を孤立させない

インプレーのシャトルがプレーヤーのラケットに触れて相手コートに向かって飛ばなかった時は、「フォルト」のコールをする

・インターバル時は、両サイドのプレーヤーを交互に観に行きコートに２名までしか入っていないことを確認

残り２０秒でコール。速やかに監督・コーチ等にコートから立ち去るように指示し、プレーヤーにはコートに入るように促す

・時間前でも両者のプレーヤーがゲームを再開する姿勢を示したら速やかにゲームを再開する

 インターバル時間内にコートに戻ってこない時は「フォルト」になります

・汗拭き、給水では、プレーヤー主導でなく主審が適当な時期にコートに入るよう促す

 （インターバルの近く、ゲーム、マッチ終了近くの汗拭きについては基本与えないようにします。）

・プレーヤー、監督ができるのは質問だけです。質問以外のことを言い始めたら止めてレフェリーを呼び、その旨を伝えて処理を委ねてください

・サーバーのラケットヘッドの後方への動作完了後に時間の長い時は、サービスのフォルトで処理しますが、サービスの態勢になかなか入らない時はゲームの継続・不品行な行為として処理します

・ラリー終了後の一声叫ぶのは自分自身を鼓舞するとして認められます。その後の二声三声は奇声と判断されます。特に「言語不明意味不明」の大声での二声三声は奇声です

・試合終了のコールまで主審は主審の位置から動かない

線審

・シングルス、ダブルスで座る位置が異なります。必ず位置を確認し、審判しやすい場所へ移動します

・背もたれから身体を離して座る

・シャトルがコートのどこに飛んでいるかを視野内で追っておきましょう

・担当ラインに向かって打たれそうな時は、担当ラインに目線を切り替えておきます

 常に担当ライン上を見ることができる位置に身体を移動させることが重要

・アウトのコールと合図

 顔は主審に向けます。

 大きな声で「アウト」のコールをします。「ト」は強く言わない。

 肘から先を伸ばすように手を広げます。（水平）

 手の指は、閉じましょう。

・インの合図

 どんなにきわどい打球でも顔を上げて主審を見ます。

※インの合図とともに顔を下に向けて入り込まないでください。

※主審に判定を伝える任務の一部を放棄してしまうことになります。手はやや下方で真っすぐ伸ばします。

・その他の留意点

ライン際のきわどい打球が来てもあまり時間をかけないで判定する。迷ったり悩んだりするそぶりを見せない。（一呼吸置いてからでも構いません。）

※きわどい時ほど格好を付けてピシッとやる。（プレーヤーが諦めます。）線審の座っているエンドでインの時は絶対にプレーヤーを見ない。

※不安そうな顔をして目を合わせるとプレーヤーもつい文句をつけたくなります。プレーヤーが質問をして来たら直接答えずに、手で主審の方を指して主審に対応を委ねる。

線審のシグナル

アウトの場合 両手を水平に広げ、手のひらは正面を向ける。「アウト」とコールする。

インの場合 右手を前に出し、「無言」でそのラインを指す。